



内政

1. 教育副大臣，BDP中央委員会で査問

シャシェ・ウエスト選挙区の与党ボツワナ民主党（BDP）地方議会議員が女子学生を妊娠させたとの事案において，同選挙区を地盤とするモラオ教育技能開発副大臣の同地方議員をかばうような言動が記載されたフェイスブック上のやりとりが漏洩した問題に関し，10日，ントウアネBDP事務総長から，BDP中央委員会は同副大臣を査問，同副大臣は同言動を否定し無実を訴えた旨表明された。

（11日：メヒ紙）

2. カーマ大統領，8名の党員を活動停止

9日，カーマ大統領は，BDPが落選したフィリップ・マタンテ・イースト選挙区の地方議員補欠選挙で，野党側に利する選挙運動を行った8名の党関係者に対し60日間の活動停止処分を命じた。

（11日：メヒ紙）

3. マシシ副大統領の入院

（11日付ボツワナ政府フェイスブックの発表を引用し）マシシ副大統領は南アで入院中。今次入院により同副大統領は平成28年春の叙勲受章のための訪日機会を逃がした。

（12日：メヒ紙，ガーディアン紙）

4. ボツワナ人女性がアフリカ市民社会団体をリード

TICADに向けたアフリカ市民社会のネットワークとなっているアフリカ市民協議会のムーキ代表（ボツワナ人女性）は次のとおり述べた。

バンジュールでのTICADVI閣僚級準備会合の成果を8月にナイロビで開催されるTICADVI首脳会合へ持って行く。TICADは，冷戦後，開発パートナーが欧州のためにアフリカを見捨てたときに，日本がアフリカの開発のために始めたものである。TICADVIでは3つの優先分野，①インフラ，②保健・水・衛生，③治安，を挙げたい。

（13日：ボツワナ・ガーディアン紙）

5. UDCとBCPの協力協議が延期

野党「民主改革のためのアンブレラ」（UDC）とボツワナ議会党（BCP）の2019年総選挙に向けた協力協議が，UDCを構成する党の一つであるボツワナ民主運動党（BMD）の内紛で再度延期された。

（14日：ウィークエンド・ポスト紙）

6. マシシ・ボツワナ副大統領の公務復帰

マシシ副大統領は公務に復帰した。

（25日：ボツワナ政府フェイスブック）

外交

1. 次期AUC委員長選

ベンソン・モイトイ次期AUC委員長選SADC候補（外務国際協力大臣）は、安保理改革に関し次のとおり述べた。

平和、公正、平等といった我々が共有する原則に従い、国際的な意思決定におけるより民主的なガバナンスのため努力し続けなければならない。これは、安保理を含む国際機関が今日の世界の現実や力関係を正確に反映することを確保するための努力を含んでいる。この目的のために、安保理改革の必要性をいくら強調してもしすぎることはない。時は今であり、我々は正しい方向に向かっている。

（6日：メヒ紙）

2. ベンソン・モイトイ大臣はAU閣僚級執行理事会会合に参加

6日、ベンソン・モイトイ大臣はナイロビで開催されたAU閣僚級執行理事会会合に参加した。

（6日：デイリー・ニュース紙）

3. カーマ大統領、モザンビークを訪問

23日～25日、カーマ大統領はモザンビークを訪問。モラレ公共政策担当大臣、モカイラ鉱物エネルギー水資源大臣、マベオ運輸通信大臣他が同行した。

カーマ大統領は次のとおり述べた。

（1）モザンビークはボツワナの経済成長における戦略的パートナーであり、両国は合同常設協力委員会及び双方に在外公館を設置している。モザンビークでの港湾及びボツワナ・モザンビーク間の鉄道整備等の両国間の主要プロジェクトを迅速に実施に

移していきたい。

（2）ボツワナ政府は電力状況改善のための方策を追求している。その一つは太陽光発電で既存の石炭火力発電を補うものである。国内での存在が確認されているガスを利用した発電も検討している。ボツワナは、モザンビークのカオラバッサダムより約80MWの電力を購入しているが、電力の自給自足も可能と考えている。

（3）モザンビークの一部地域で発生している平和を脅かす治安上の課題を懸念している。

ボツワナに帰国後、マベオ運輸通信大臣は、今次訪問で署名できなかったモザンビークとの航空協定に関し、いくつかの条項がペンディングとなっている旨述べた。

（24日～27日：デイリー・ニュース紙）

4. 大使の信任状捧呈

30日にシンガポール、チリ、ギリシャ、カナダ、31日にチェコ、バチカンの新大使・高等弁務官がカーマ大統領に信任状を捧呈した。駐ジンバブエのカナダ高等弁務官以外は駐南ア。

（6月1日、2日：デイリー・ニュース紙）

経済

1. 経済指標

1) ボツワナの主要経済指数

・経済成長率

2015年経済成長率は-0.3%（修正後）（2014年は3.2%）。

・インフレ率

2016年4月は2.8%（2016年3月は3.0%）。

・為替レート（FNB）

2016年5月31日：

1 プラ=0.086米ドル

1 プラ=1.355南ア・ランド

1 プラ=9.70円

2016年4月29日：

1 プラ=0.0917米ドル

1 プラ=1.293南ア・ランド

1 プラ=9.90円

2. ダイヤモンド産業

1) デビアス社とナミビア10年契約の影響

今月第3週、デビアス社はナミビア政府と10年間の原石選別に関する契約を結んだ。これにより、ナミビア政府とデビアス社が50対50で共同出資するNDTC社（ナミビア所在）には年間4億3千万米ドル相当の原石が提供されることとなり、現在までナミビア産ダイヤモンドを含むデビアス社のダイヤモンド原石の選別作業を一括して行っていたボツワナに影響が出るとの声も挙がっている。（20日：ガーディアン紙）

3. エネルギー・資源

1) カーマ大統領、干ばつの深刻化に懸念

ボツワナ統計局の報告によると、ボツワナは、2014年から2015年にかけての雨期の降水量が大幅に減少した影響から穀物生産量が21%減少した。これを受け、カーマ大統領は、SADCセミナーにおいて、深刻な水不足と食料不足に対する懸念を表明した。同大統領は、「ボツワナだけでなくSADC地域全体が過去数十年間において最悪の干ばつを経験しており、地域一

丸となってこの問題に取り組む必要がある」旨述べた。

（26日：サンデー・スタンダード紙）

2) 鉱山事故で4名死亡

29日、BCL社の鉱山の地下坑道で鉱員輸送用ワゴンのロープが切断し4名が死亡。同鉱山では過去2年間で11名が死亡している。

（31日：メヒ紙）

4. アフリカ開発銀行、対ボツワナローン承認

4月29日、アフリカ開発銀行（AfDB）執行委員会は、対ボツワナの8億5千万プラのローンを承認した。ボツワナ開発公社は、AfDBからのローンは、農業ビジネス、サービス産業、インフラ、製造業等の優先分野への投資に使われる旨報告した。

（3日：サンデー・スタンダード紙）

5. S&P、ボツワナ経済見通しを「ネガティブ」へと引き下げ

スタンダード・アンド・プアーズ（S&P）は、ボツワナ経済の見通しに関する格付けの見直しを行い、「安定的」から「ネガティブ」へと引き下げた。引き下げの主な要因は、ダイヤモンド等の価格変動から発生する負の経済リスクの存在とされている。他方、格付けは「A-／A-2」を維持している。（1日：サンデー・スタンダード紙）

6. EU-SADC経済協力協定、署名へ

6月10日、ボツワナ北部のカサネにおいて、10年間に亘る交渉を経て合意に至

ったEU-SADC経済協力協定の署名式が行われる予定である。

(14日：ウィークエンド・ポスト紙, 24日：メヒ紙)

7. カーマ大統領, 経済回復に期待

カーマ大統領は, 第40回ハイレベル諮問委員会の会議において, 「ボツワナは2015年から始まった軽微な景気後退から回復しつつある」旨発言した。これはIMFの予測においてボツワナの2016年から2020年の平均年間成長率が4.3%であることや, 直近数ヶ月間のダイヤモンド原石の売上げが回復しているためである。

(27日：デイリー・ニュース紙)

8. ボツワナ政府, モルプレA発電所の売却を検討

アビ鉱物エネルギー水資源省次官によると, ボツワナ政府はモルプレA発電所を改修工事後に民間企業に売却することを検討している。

(29日：パトリオット紙)

文化

1. 渡辺貞夫氏, コンサート開催

20日, サックス奏者である渡辺氏は, カーマ大統領の招待によりハポロネを訪れジャズ・コンサートを開催した。これは, 渡辺氏にとって, 2010年の東京にてボツワナ・ミュージシャンと共演して以来2度目のボツワナとのコラボレーションとなる。当日, 会場は熱く盛り上がりを見せ, ボツワナ独立50周年及び日・ボツワナ外交関係樹立50周年を記念するにふさわしいイベントとなった。また, コンサート前

日には現地音楽家を対象とした渡辺氏によるワークショップも開催された。

(28日：ウィークエンド・ポスト紙, 29日：パトリオット紙, サンデー・スタンダード紙)